



3 国有林野の林産物の供給

3 国有林野の林産物の供給

(1) 計画的な収穫の実施

木材等の林産物の収穫は、公益的機能の維持増進を旨とする管理経営を進めることを基本として、自然環境の保全等に十分配慮しながら、持続的・計画的に進めています。平成14年度には464万 m^3 の木材等を収穫しました。

また、育成林^{注)}の適切な整備を進めるため、間伐や複層林への転換のための抜き伐りを積極的に実施しました。

さらに、多様な森林を有しているという国有林野の特性を活かし、民有林からの供給が期待しにくい大径長尺材や、木曽ヒノキ、天然秋田杉^{注)}等の銘木の計画的な供給に努めています。

事例 天然秋田杉及び高齢級人工林スギの供給計画の策定

東北森林管理局では、秋田県の木の花の文化の象徴であり、銘木としても評価の高い天然秋田杉の計画的な収穫と、その後継材として期待される100年生以上の高齢級人工林スギの育成に取り組んでいます。

平成14年度には地域林業と木材産業の持続的発展のため、資源量の調査に基づき天然秋田杉と高齢級人工林スギを一体のものとして安定的に供給する計画を作成しました。

(東北森林管理局)

表-14 収穫の実施状況 (単位：万 m^3)

区 分	平成14年度	(参考)平成13年度
主 伐 ^{注)}	167	174
間 伐	298	279
合 計	464	452

表-15 民有林からの供給が期待しにくい樹種の素材(丸太)供給実績

樹 種 名	平成14年度	(参考)平成13年度
ヒ バ	3.8	4.2
木曽ヒノキ	1.0	1.2
天然秋田杉	0.4	0.5



場 所：秋田県山本郡山本町 ^{そえはたざわ} 添畑 沢国有林 (米代西部森林管理署管内)
 明：写真は、天然秋田杉の後継材として期待される高齢級人工林スギ(94年生)の様子です。

(2) 林産物等の販売

平成14年度の木材販売量は、立木販売^{注)}については38万 m^3 減少して220万 m^3 に、素材（丸太）販売^{注)}については11万 m^3 増加して59万 m^3 となりました。

販売に当たっては、間伐材等の需要拡大を目的に特定の相手方と協定を結び、一定期間にまとまった量の木材を供給する「システム販売」を活用したり、民間市場への素材販売の委託や、公共建築物への資材販売を行うなど、より有利な販売や販路の拡大に努めました。

このように収入の確保に努力しましたが、材価の下落等により平成14年度の林産物等収入は224億円にとどまりました。

表－16 林産物等販売の状況

区 分	平成14年度		(参考)平成13年度	
	数 量 (万 m^3)	金 額 (億円)	数 量 (万 m^3)	金 額 (億円)
林産物等収入	-	224	-	256
立木販売	220	57	258	74
素材販売	59	156	48	174
そ の 他	-	11	-	9

注：1 数量は、立木販売については立木材積で、素材販売については素材（丸太）材積で示している。

2 「その他」は、官行造林官収分収入、分収育林官収分収入等である。

表－17 国有林材の販売単価の動向 (単位：百円/ m^3)

年 度	平成 10	11	12	13	14
立木販売	38	35	31	22	19
素材販売	291	326	337	358	264

注 販売単価は、立木販売については立木材積単位、素材販売については素材（丸太）材積単位の年間平均単価(実績)で示している。

事例 木材利用の推進を図るためのシステム販売協定の締結

東北森林管理局青森分局は、カラマツ間伐材の販売を促進するため、一定期間にまとまった量の木材を供給する「システム販売」の協定を、三陸北部森林管理署管内の素材生産業者や合板工場との間に締結しました。この協定に基づき平成14年度から15年度の間に管内のカラマツ間伐材約3,000m³を合板材料として安定的に供給することになっています。

(東北森林管理局青森分局 三陸北部森林管理署)



場 所：岩手県宮古市

説 明：写真は、協定を締結した合板工場において合板が生産される様子です。

民間市場に委託した販売の事例



場 所：北海道旭川市（左上）、秋田県能代市（右上）、高知県高知市（下）

説 明：写真は、北海道森林管理局帯広分局根釧西部森林管理署管内で生産されたウダイカンバ（左上写真の中の右）とセンノキ（左上写真の中の左）、東北森林管理局秋田森林管理署管内で生産された天然秋田杉（右上）、四国森林管理局安芸森林管理署管内で生産されたヒノキ（下）で、民間の市場で販売され、高値で落札されました。